

小林 信彦

長岡工業高等専門学校 土木工学科 平成6年3月卒業

平成6年4月入社 土木設計部所属

環境都市工学科の前身、土木工学科で学び、卒業後は三条市の株式会社小林設計事務所に勤務し、主に道路や河川構造物、農業用施設などの設計を手掛けています。

私たちが携わった施設をいくつか紹介します。建設コンサルタントってどんなことしてるの？と思っている学生の皆さんがイメージを膨らませるための一助になることを願っています。

中栄大橋（長岡市大沼新田地内）

3径間連結ポストテンション方式PCバルブT桁橋という形式のコンクリート製の橋です。橋の重さは両側にある橋台と中央にある2ヶ所の橋脚で支えます。この重さを支えることのできる固い地盤が深いので、鋼管杭という鉄製の杭を地面に打込んで橋を支えています。



下の写真は施工中の様子です。工場から運んできた主桁を、現場でつなぎ合わせて1本にしているところです。主桁に開いている5ヶ所の穴にPC鋼線という鉄製の紐を通して引っ張り、縮もうとする力を利用しています。

建設コンサルタントは設計に関する知識だけでなく、施工に関する知識も必要になります。ですから、施工の現場を見学することは貴重な経験になります。



大石大橋と珠川大石スノーシェッド（十日町市馬場地内）



手前の橋が大石大橋です。3径間連結ポストテンション方式PCコンボ橋という形式のコンクリート製の橋です。橋を支えている橋脚は地面に埋まっているので見えませんが、固い地盤の上に載っていて橋の重さを支えています。

斜面の中腹に造られているのが珠川大石スノーシェッドです。逆L型PCスノーシェッドという形式で、こちらもコンクリート製です。L形状の山側受台と谷側の柱で天井を支えていて、全長約350mに渡って道路を覆い、雪崩による被害から利用者を守っています。

これまでは川の反対側へ行き来するには迂回が必要でしたので20分ほど掛かっていましたが、大石大橋と珠川大石スノーシェッドの開通で利用者の利便性は格段に向上しました。

珠川大橋（十日町市馬場谷地内）

4径間プレテンション方式PC単純床版橋という形式のコンクリート製の橋です。橋を支えている橋脚は高さが20mほどありますので、地震が起きた時には橋の揺れが大きくなりますが、地震に対しても安全なように設計されています。



平成23年の東日本大震災では地震の揺れで斜面が崩れましたが、橋へのダメージはありませんでした。崩れた斜面は災害復旧事業で修復が終わっています。



後輩の皆さんへのメッセージ



私たちの会社は地域に根ざし、地域とのつながりを大切にしています。様々なインフラが整備されることで、私たちの生活は便利で豊かになります。道路、河川、上下水道やガスなどのライフライン、学校などの公共施設、農業用施設、造成地など挙げればきりがありませんが、これらを整備する側として地域に貢献しています。

私自身も在学中は先生方からたくさんのことを教えて頂きました。社会人になって20年以上がたった今でも学生時代に学んだことが礎になっています。そして、先輩のご指導の下、今日も地域の人たちに喜ばれることを目指して仕事をしています。

後輩の皆さん。仕事のやりがいをどこに感じるかは人それぞれです。どんな仕事に就いてもやりがいは見つけれられるはずですよ。

建設コンサルタントの仕事って自分に向いてるのかな？自分にもできるのかな？なんて心配している君。そんな心配しなくても大丈夫ですよ。高専生です。自信を持って下さい。

興味あるな、面白そうだな、やってみたいと思ったら、一度、訪ねてみて下さい。お待ちしております。